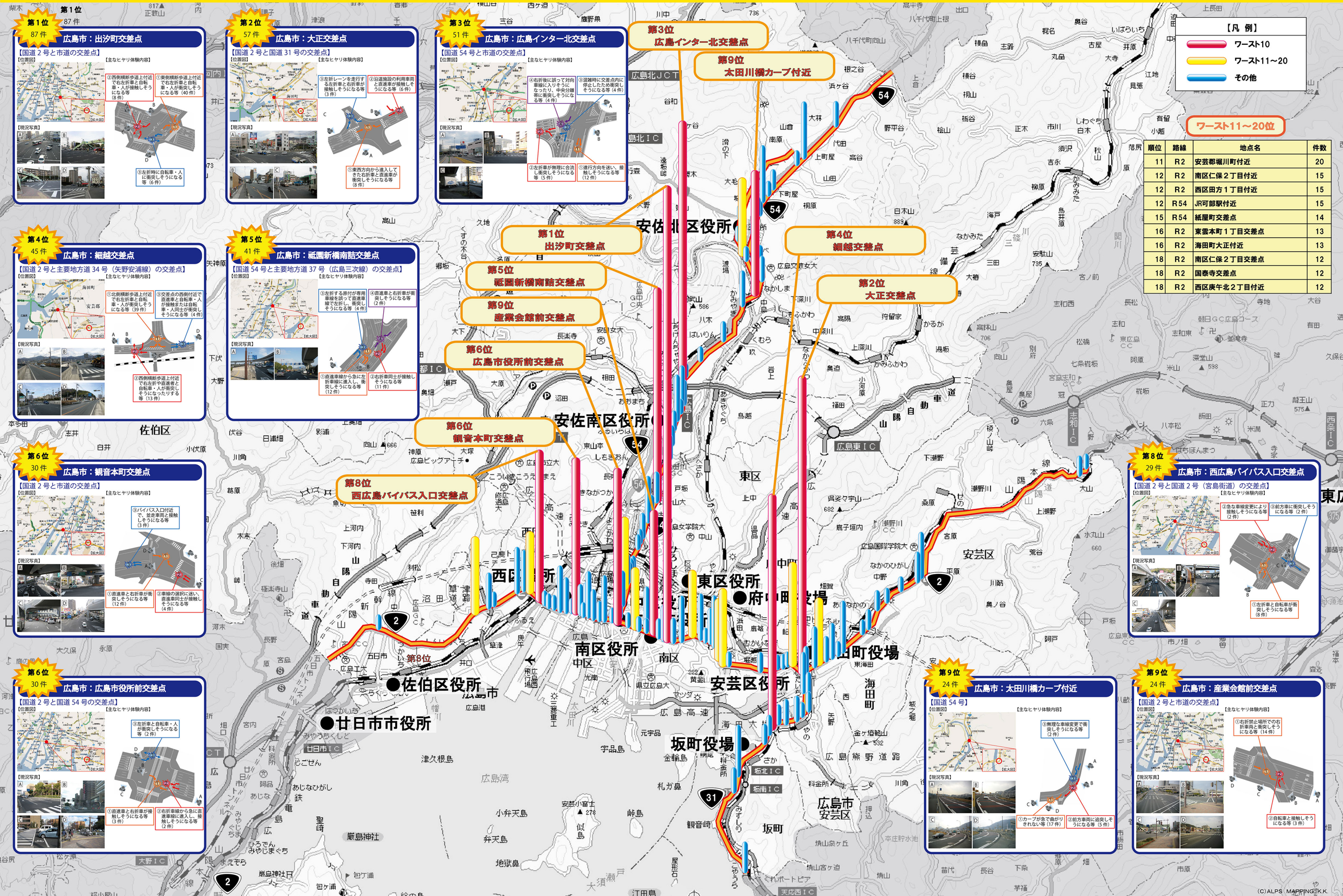
【広島・海田地区】

国道2号 国道31号 国道54号

ヒヤリまっぷ

～みなさんから寄せられたヒヤリ・ハット体験を地図にしました～

『ヒヤリ・ハット体験』とは、交通事故になりそうだった体験のことです。



第1位 87件 広島市：出汐町交差点

【国道2号と市道の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第2位 57件 広島市：大正交差点

【国道2号と国道31号の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第3位 51件 広島市：広島インター北交差点

【国道54号と市道の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第4位 45件 広島市：細越交差点

【国道2号と主要地方道34号（矢野安浦線）の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第5位 41件 広島市：祇園新橋南詰交差点

【国道54号と主要地方道37号（広島三次線）の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第6位 30件 広島市：観音本町交差点

【国道2号と市道の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第6位 30件 広島市：広島市役所前交差点

【国道2号と国道54号の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第8位 29件 広島市：西広島バイパス入口交差点

【国道2号と国道2号（宮島街道）の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第9位 24件 広島市：太田川橋カーブ付近

【国道54号】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

第9位 24件 広島市：産業会館前交差点

【国道2号と市道の交差点】

【位置図】 【主なヒヤリ体験内容】

【現況写真】

ワースト11～20位

順位	路線	地点名	件数
11	R2	安芸郡堀川町付近	20
12	R2	南区仁保２丁目付近	15
12	R2	西区田方１丁目付近	15
12	R54	JR可部駅付近	15
15	R54	紙屋町交差点	14
16	R2	東雲本町１丁目交差点	13
16	R2	海田町大正付近	13
18	R2	南区仁保２丁目交差点	12
18	R2	国泰寺交差点	12
18	R2	西区庚午北２丁目付近	12

広島・海田地域

国道2ROUTE　国道31ROUTE　国道54ROUTE

ヒヤリまっぷ

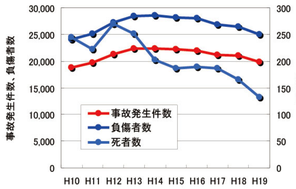
みなさんのヒヤリ・ハット体験による交通安全マップ

国土交通省中国地方整備局・広島国道事務所

広島県下の交通事故状況　1

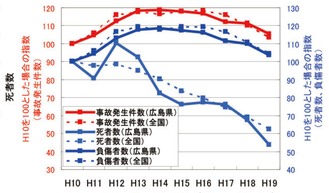
事故発生件数・負傷者数は、減少傾向にあるものの、10 年前よりも高いレベルにあります。

- 交通事故による死者数は、近年の交通安全対策の効果もあって、過去 10 年間で概ね半減しています。
- 事故発生件数※、負傷者数についても近年減少傾向にありますが、10 年前の数値と比べると、まだ高いレベルにあります。
- 過去 10 年間の広島県内での事故発生状況（事故発生件数、負傷者数、死者数）の推移は、全国とほぼ同じ傾向を示しています。



広島県の交通事故発生状況の推移

※事故発生件数：死傷事故の件数

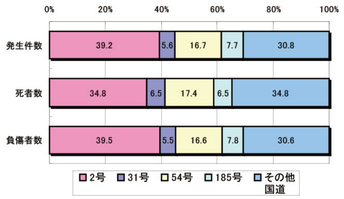


事故発生件数の推移比較（全国・広島県）

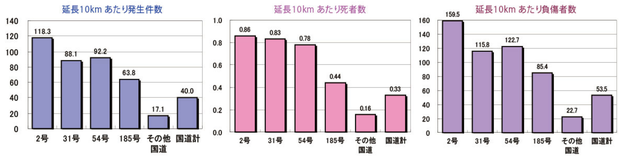
資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

路線別では、国道 2 号に事故が集中する傾向が見られます。

- 広島県全体の事故のうち、約 4 割が国道 2 号で発生しています。また、負傷者数で見ても約 4 割、死者数では約 35%を占めています。
- 延長 10km あたりで見ても、国道 2 号で事故が多発する傾向が見られ、次いで国道 31 号や 54 号で多く発生しています。



路線別の事故発生状況



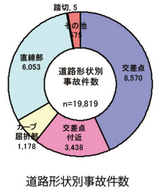
路線別の事故発生状況（延長 10kmあたり）

資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

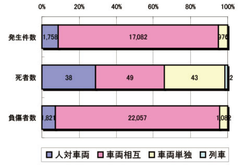
広島県下の交通事故状況　2

事故発生場所別では、交差点における事故が全体の約 4 割を占めています。また、追突や出合頭等の車両相互の事故が大半を占めています。

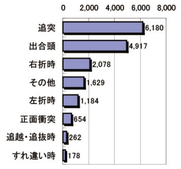
- 事故発生場所別では、交差点における発生件数が 43%を占めています。
- 事故類型別では、車両相互の事故が最も多く全体の 86%を占めており、このうち、追突や出合頭の事故が特に多く発生しています。また、死者数については、人対車両や車両単独の事故の割合も高くなっています。



道路形状別事故件数



事故類型別発生状況

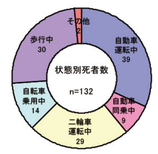


車両相互事故の内訳

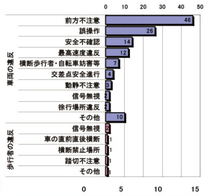
資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

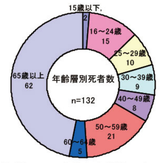
自動車運転中の死者が全体の約 3 割を占め、前方不注意による事故が多発しています。また、横断中の高齢者事故が多発しています。

- 状態別の死者数の内訳は、自動車運転中が最も多く 32%を占め、歩行中がこれに次いでいます。
- 法令違反別では、前方不注意による事故が最も多く発生しています。
- 全死者数のうちの 47%が高齢者であり、そのうち横断中の事故が多くなっています。

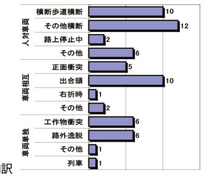


状態別死者数と法令違反別死者数





年齢層別死者数と高齢者死者の内訳

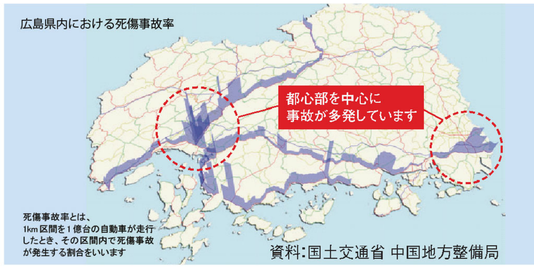


資料：広島県警察本部「広島の交通統計」平成 19 年版

広島・海田地域における交通事故状況

都心部を中心に事故が多発しており、特に広島市内の事故の集中が顕著です。

- 広島県内の死傷事故は、広島、福山の都心部を中心に多発する傾向が見られ、特に広島市内の国道 2 号や国道 54 号では、死傷事故率の高い区間が多く見られます。



広島･海田地域の直轄国道における事故多発箇所（死傷事故率の高い交差点）

- 広島･海田地域の直轄国道における死傷事故率を見ると、最も高い箇所は、国道 2 号「広島スタジアム入口交差点」の 913（件/億台キロ）となっています。
- 上位 5 位の交差点は、いずれも交通量の多い広島市内の幹線道路に位置する事故危険箇所となっています。

？？　「ヒヤリまっぷ」って何　？？

ヒヤリまっぷ作成の目的

- 国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑止するための交通安全対策に取り組んでいます。
- 今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみなさまから「ヒヤリ･ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実施しました。

「ヒヤリ･ハット体験」とは、
交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

- 今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ･ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考とさせていただくとともに、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう「ヒヤリまっぷ」としてとりまとめました。

ヒヤリまっぷの活用方法

- お出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ･ハット箇所」の有無や位置をご確認下さい。
- 「ヒヤリ･ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ･ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
- 地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリまっぷ」の情報を関係者の間で共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

ヒヤリまっぷ作成にあたってのアンケートにご協力いただいたみなさま

広島国道事務所管内を対象に、交通安全（ヒヤリ･ハット体験）アンケート調査を実施し、その結果、以下のとおり合計 1,813 名の方々から、貴重な体験情報やご意見をいただきました。
ご協力いただいた方に、改めて御礼申し上げます。【アンケート実施期間：平成 20 年 8 月～10 月】

●運転免許更新者の方々	500 名
●プロドライバーの方々（トラック、バス、タクシー、JAF、郵便配達の各ドライバー）	297 名
●中学校、高校の生徒の方々	432 名
●公共施設等の利用者の方々	584 名

ヒヤリまっぷ・アンケートに関するお問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 広島国道事務所

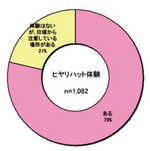
〒734-0022　広島市南区東雲２丁目 13-28
TEL：（082）281-4131（代表）　FAX：（082）286-7897
E-mail：hirokoku@cgr.mlit.go.jp

広島・海田地域のヒヤリ・ハット状況 1

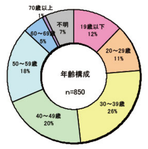
交通安全アンケートをもとに、皆さんから寄せられたヒヤリ･ハット体験の状況を整理すると、以下のとおりとなっています。

約 8 割の方（ほぼ全ての年齢層）がヒヤリ･ハットを体験！

- 交通安全アンケートに回答していただいた方の 79%が、ヒヤリ･ハットを体験しています。
- 年齢層別では、30 歳台が概ね 1／4 を占めていますが、その他、ほぼ全ての年齢層がヒヤリ･ハット体験しています。



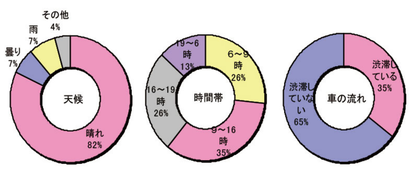
ヒヤリ･ハットの体験状況



ヒヤリ･ハット体験者の年齢構成

ヒヤリ･ハット体験は、「晴れの日」の「午前中から夕方」、「渋滞していないとき」に集中！

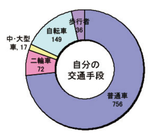
- 天候別では、「晴れ」が 82%を占めています。
- 時間帯別では、「9～16 時」が最も多く、「6～9 時」「16～19 時」がこれに次いでいます。
- 「渋滞していない時」のヒヤリ･ハットが、全体の 65%を占めています。

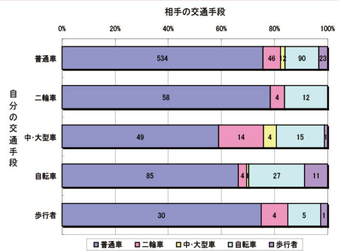


ヒヤリ･ハット体験の発生状況の内訳（天候、時間帯、車の流れ）

ヒヤリ･ハット体験は、自分･相手ともに普通車運転中に多い！

- 自分が普通車を運転中にヒヤリ･ハット体験したケースが圧倒的に多く（73%）、自転車運転中がこれに次いでいます。
- ヒヤリ･ハット体験した際の相手の交通手段についても、ほとんどが普通車です。



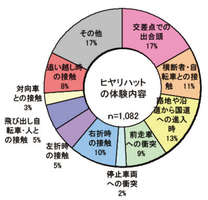


ヒヤリ･ハット体験時の交通手段（自分･相手）

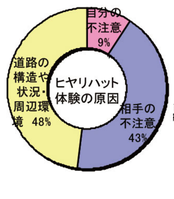
広島・海田地域のヒヤリ・ハット状況 2

「見通しが悪い」ことによる「出合頭」や「沿道からの進入時」のヒヤリ･ハットが多い！

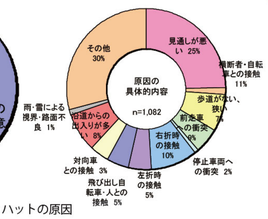
- ヒヤリ･ハットの具体的内容としては、「交差点での出合頭」や「路地や沿道から国道への進入時」などが多く挙げられています。
- ヒヤリ･ハットの原因は、「道路の構造や状況･周辺環境」が半分近くを占めており、その具体的内容としては「見通しが悪い」が最も多く挙げられています。



ヒヤリ･ハットの具体的内容

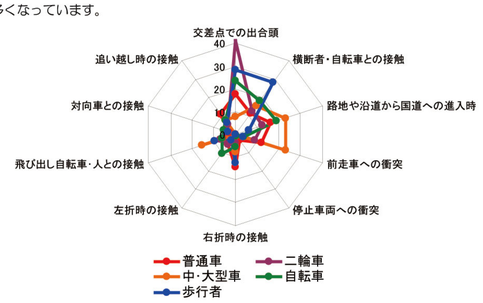


ヒヤリ･ハットの原因



歩行者のヒヤリ･ハットは、「出合頭」や「自転車等との接触」が多い！
中･大型車のヒヤリ･ハットは、「国道への進入時」や「前走車への衝突」が多い！

- 歩行者については、「交差点での出合頭」や「横断者･自転車との接触」のヒヤリ･ハット体験が多く、また二輪車についても、「交差点での出合頭」のヒヤリ･ハットが特に多く挙げられています
- 中･大型車のドライバーは、「路地や沿道から国道への進入時」や「前走車への衝突」のヒヤリ･ハットが多くなっています。



交通手段別のヒヤリ･ハット体験の内容

みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めます！

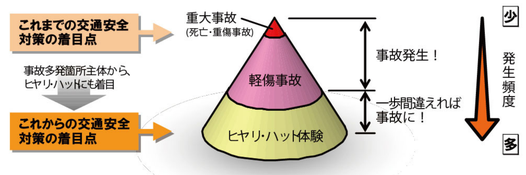
1 件の重大事故発生の背景には、その何百倍ものヒヤリ･ハットが！

- 広島県内では、132 人の死亡事故（平成 19 年実績）を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽傷事故と、何百倍ものヒヤリ･ハット体験が発生しているといわれています。

※ハインリッヒの法則

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ･ハット箇所にも着目した対策に！

- これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所（事故率が高い箇所）に着目した対策が主体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題がありました。
- 重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ･ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所の対策に加えて、ヒヤリ･ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。



事故とヒヤリ･ハットの関係と、交通安全対策の着目点

地域のみなさまと共に交通安全対策を検討！

- これまでも、交通安全対策の検討に際し、現地検討会を開催するなど、地域のみなさまのご意見等を対策に反映するための機会を設けてきました。
- 今後も、交通事故（死傷事故率）のさらなる削減に向けた対策を引き続き進めていく予定ですが、地域の実情をふまえた適切な対策を講ずるためには、ヒヤリ･ハット情報の提供など地域のみなさまのご協力が不可欠となります。
- 誰もが安全に安心して利用できる道路環境の実現に向け、みなさまのご協力をお願いいたします。

竹原市内での地域のみなさまを交えた現地検討会の様子